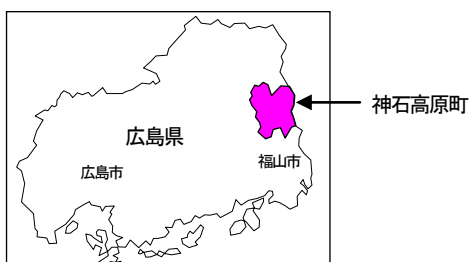


モデル事業名	「集落サポーター」による効果的な活動体制構築プロジェクト
活動団体名	神石高原町美しい源流の里維持再生協議会
ホームページ	(なし)
所属／ 担当者名	神石高原町美しい源流の里維持再生協議会 事務局長 前原隆博
連絡先	0847-89-3332 / jk-kikakuzaisei@town.jinsekikogen.hirosima.jp
活動地域	広島県神石郡神石高原町

● 活動地域の概要

- ・広島県の東部、県東部の中心地である福山市から約30kmに位置
- ・高梁川水系の源流部、標高400～500mの高原が大部分を占める豊かな自然に恵まれた農山村（総面積381.81km²）
- ・人口11,308人、総世帯数4,210世帯（平成21年4月1日現在）
- ・特産品は、神石産広島牛、神石高原町産まるとよトマト、こんにゃくいも等
- ・比婆道後帝釈国定公園をはじめとする自然環境・景観を活かしたリゾート・レクリエーション地が数多く分布
- ・産業別就業人口は、第三次産業が41.4%、第一次産業が32.8%（平成17年国勢調査）
- ・主要道は国道182号が東部を南北に縦断。都市周辺部や島しょ部を除くと、県内市町で唯一高速道路網が未整備（予定を含む）
- ・高齢化率（人口に占める65歳以上の割合）は県内一の42.8%（平成17年国勢調査）
- ・「高齢化率50%以上かつ20戸未満の集落」が、全218集落中82集落（37.6%）
- ・「総戸数10戸未満かつ高齢化率50%以上の集落」（単独の集落で葬式を行うことができなくなる目安とされる集落）または「20戸未満かつ60%以上」（近い将来そうした可能性のある集落）が、全集落の22.5%（49集落）【本事業の対象集落（小規模・高齢化が特に進んだ集落）】



【位置図】



【荒廃が進む集落】

● 活動地域の課題

- ・本町では、小規模・高齢化が特に進んだ集落の大部分が近い将来、消滅するかもしれないという危機意識のもと、平成20年度から集落の維持・再生を図るための取り組みに本格的に着手しました。
- ・これらの集落を対象（当時42集落）に行った意向調査（平成20年9月）では、「鳥獣被害の増加」「農地の荒廃」「祭り等催しの困難化」など様々な面で集落活動に支障を来しながらも、回答者の過半数が「自分の家で住み続けること」を希望しています。
- ・さらに、調査を行うなかで、過疎・高齢化の過度な進行によって集落機能が脆弱化し、地域住民同士の会話が疎遠になり、行政情報もほとんど伝わっていないことも明らかになりました。
- ・これらの集落が5～10年後も存続できるよう、祭りや共同作業など集落機能の再構築を図るためには、地域住民が主体的に今後の地域のあり方について話し合うことが大切です。
- ・その取り組みを促すためには、行政と地域住民をつなぐ担い手（新たな公）として、行政施策（制度）の活用や行政施策では限界のある地域固有の問題に対応しながら、地域づくりのための合意形成活動を進める「集落サポーター」（集落支援員）を育成・確保することが必要となっています。
- ・本町では、少子・高齢化や市町村合併等に対応した新しい住民自治のモデルとして、平成15年から「ながの村」（旧神石町永野地区）の取り組みが行われています。
- ・「ながの村」は村長（地域マネージャー）を配置し、地域コミュニティ活動や地域資源管理等について一元的な管理・運営を行うほか簡易宿泊施設の運営や都市住民との交流に取り組むなど、旧永野小学校を拠点に地域支援センターとしての大きな役割を果たしており、地域づくりにあたっては地域の実情に合った取り組みを行うことが必要とされています。
- ・このため、平成21年度から、集落支援員（行政経験者等）を配置し、小規模・高齢化が特に進んだ集落を対象に、対象集落内の全戸見守り活動と集落の話し合い活動（集落維持再生化プロセスの策定と実行）などを支援します。
- ・集落の話し合い活動を促すためには、集落支援員が効果的に活動できる体制づくり（提供する情報の収集、連絡体制の整備、合意形成能力の向上等）や、集落支援員のスキルアップ（ワークショップ手法や地域マネジメント手法等に

係る技術習得) が課題となっています。

- ・また、平成 22 年度から取り組む集落維持再生化プロセスの実行に向けて、集落支援員、行政、地域住民の役割分担を明確にすること(期待される役割、共通認識の醸成)が課題です。

● 活動の内容

・平成 21 年度

【活動内容①：集落社会サービスの実態調査】

- ・集落機能の再構築に向けた集落での話し合い活動を促すにあたり、集落で取り組まれている様々な社会サービス(回覧板など行政情報の伝達、草刈など共同作業等)の実施状況と問題点を体系的に把握するため、集落を対象にヒアリングを行い、その結果を基本情報(人口、世帯数等)とあわせてデータベース化し、取組課題(町共通、集落固有)を抽出します。

【活動内容②：集落支援員のスキルアップ研修】

- ・集落支援員の合意形成能力を高めるため、ワークショップや地域マネジメントの手法について、事例紹介や意見交換、実地指導など、地域づくりを実践している専門家による助言・指導を行います。
- ・あわせて、集落支援員と行政職員とが進捗状況を確認し、情報を共有するための集落支援員連絡会議を定期的開催します。

【活動内容③：集落支援員、行政、地域住民の役割分担の検討】

- ・平成 22 年度から取り組む集落維持再生化プロセスの実行に向けて、集落維持再生化プロセスの活動内容を集計・分析のうえ、取組構想が具体化した集落において地域づくりを実践している専門家も交えたワークショップを開催し、集落支援員が地域住民から必要とされている活動(行政施策担当者との調整等)やその実現可能性について検討し、集落支援員、行政、地域住民の共通認識を深めながら役割分担を明確化します。
- ・町出身者等によるふるさと応援団の組織化や集落維持再生化プロセスへの参画など、外部からの支援・協力を具体的に検討するため、県内在住の出身者を対象に、地域との交流を通じたまちづくりに関する意向調査を行います。

● 活動の成果

・平成 21 年度

【活動内容①：集落社会サービスの実態調査】

- ・各集落で多種多様な活動が行われている一方、集落規模が過度に小さいことにより、集落社会サービスの多くが機能していない集落が多数を占めているほか、周辺集落との連携や自治振興会単位での取組が多くを占めていることが明らかになった。

【活動内容②：集落支援員のスキルアップ研修】

- ・集落支援員連絡会議を毎月 1 回程度開催し、進捗状況の確認や活動内容の検討のほか、先進事例紹介、外部人材との意見交換等により情報共有を行っている。
- ・スキルアップ研修として、集落支援員の役割や集落維持再生化プロセス策定に向けた取り組みに関する研修会や先進地視察(島根県中山間地域研究センターでの研修、近隣集落支援員との意見交換)を行った。

【活動内容③：集落支援員、行政、地域住民の役割分担の検討】

- ・協議会を開催し、自治振興会単位での取組を行う必要性のほか、町出身者からの支援・協力について具体的検討の必要性が出された。



● 今後の課題及び展望

【課題】

- ・対象 49 集落の各々で「維持再生化プロセスの策定」を目指してきたが、住民・集落支援員など関係者による話し合いを進めてきたなかで、「単独では中々維持再生化が困難である」「そもそも現状維持でさえ難しい」とする集落が多くを占めていることが顕在化した。このため、自治振興会での取組(広域化)や町出身者(ふるさと応援団)による支援・協力の可能性についても模索しながらではあるが、重要視しながら維持再生化プロセスの策定に取り組むことが大きな課題であることが共通の認識となった。

【展望】

- ・スキルアップ研修(テーマ:協働によるまちづくり) ※活動②
- ・町出身者への意向調査(集計中) ※活動③
- ・集落維持再生化プロセスの活動内容の集計・分析 ※活動③
- ・取組構想の実現可能性検討のためのワークショップ開催(2~3集落) ※活動③